



泉だより

IZUMI・DAYORI



2021.9.1 VOL.42

発行元



社会福祉法人 泉学園
Social welfare corporation IZUMIGAKUEN

〒702-8026 岡山市南区浦安本町190番地
TEL (086) 264-2882

発行人 岡崎 イツヨ



一人ひとり、
みんな、主人公

(巻頭言)

コロナ禍での暮らしを支える

桑野フレンドリーハウス・ワークプラザ 管理者 谷川 二郎

令和3年度前半も、コロナ対策に追われながらの毎日が続いています。岡山県には5月半ばより緊急事態宣言が発令され、桑野フレンドリーハウス・ワークプラザがある岡山ふれあいセンターが、時間短縮や土日は休館する中で、当事業所は様々な方の協力を得ながら、通常通り開所することができました。

開所より30年近くになる当事業所では、ご両親がコロナワクチンの優先接種の対象になる方が多く、ご利用者の送迎の際には、「腕は上がらないけど熱はでなかった。」「ワクチン接種をして安心した。」等ワクチン接種の話題が増えていました。

昨年度は、新型コロナウイルス自体がわからない事もあり、感染防止対策のため、行事等を中止にすることが多かった当事業所でも、今年度は、少人数にして行事を実施しようとしています。7月には、少ないグループに分けて七夕会を実施しました。短冊の願い事は「コロナが早く収束しますように。」「旅行に自由に行くことができますように。」「みんなが笑顔で暮らせますように。」「みんなが毎日仕事にきますように。」などなど。

近年の当事業所では、ご両親が高齢になられて、健康上の問題等により在宅での生活が難しくなり、ご利用者の今後の生活をどのようにしていくかという課題があります。数か所のショートステイを利用しながらグループホームや入所施設の空きを待つご利用者の方も複数名おられました。ご本人にとっても負担のある生活を強いられていました。今後は、早期に計画相談の方を中心として複数の事業所の協力を得ながら、ご本人の人生設計と一緒に考えていく必要性を強く感じます。

今年6月には、岡山市障害者基幹相談支援センターが開所されました。共生社会の実現に向けて着実に前に進んでいるように思います。「一人ひとり、みんな、主人公」という当法人の理念の基、笑顔が絶えない事業所であるようご利用者と共に一日一日を大切にしていけたらと思います。

泉だより編集委員がゆくー
「気になる人に聞いてみた」



令和3年6月1日より、「岡山市障害者基幹相談支援センター」が設置されました。運営は岡山市にある複数の社会福祉法人による共同事業体となっております。泉学園も参加しています。

岡山市ホームページによると、「障がい者の相談支援の司令塔」とのこと。センターのことや、福祉に対する思い、今後の展望など、いろいろなことを聞いてみました。

●早速ですが、岡山市障害者基幹相談支援センターについて教えてください。
(村上センター長 以下「村」)
岡山市ではまだ聞きなれない名前かもしれませんが、柱としては岡山市から



受託している「基幹センター事業」「権利擁護・虐待防止センター事業」、他の自治体にはない「医療的ケア児等総合支援事業」の3つと、「地域共生社会の実現に向けた地域づくり」と合わせて4つがあったり、ざっくりいうと「地域で障がいのある方の相談を受けている相談支援事業所に対しての専門的な助言とか、いわゆるバックアップを行いつつながら、今ある相談支援体制の強化をはかるということかな、これが基幹相談支援事業。それに権利擁護、医療的ケア児の事業をあわせてやっていく形です。」

●ありがとうございます。直接支援はされないということですが、センターができたことで、地域で暮らし障がいのある方自身の暮らしがどう変わっていきますか？

村 相談支援事業所の底上げや質向上の取り組みの中で、その方に関わるサービスの事業者の連携が広がって、深まっていく。そのことで障がいのある方自身の生活の質ということ、生活福祉の向上がはかれるというところになるのかな。

虐待であったり、障がい者理解であつたり、相談支援事業所だけではなく、使っているサービス事業者さんも連携することによりいろいろな気づきもあり、副次的にサービス事業所の質向上にも波及していくことも期待しています。ツールとしては自立支援協議会を活用していきたいとは思っています。

センターとしてやっていかないといいけないのは地域生活の支援。今の住み慣れた地域での暮らしが安心して続けられるように地域支援体制をしっかりと作っていくということが一番のミッションです。その為にどうするかということで、地域生活支援拠点のさらなる充実を地域の中で掘り下げて深めていかないといいけないと考えています。具体的には親戚き後の支援体制、強度行動障害や医療ケアの方を地域で支えるネットワークや支援の仕組みづくりを考えて

いきたい。15年20年課題となっている精神科病院からの地域移行についても、少しずつ地域での動きも出てきていくので、どのような形で般化させていくかも基幹センターのミッションだと感じます。

その後、村上センター長のインタビューは岡山市の障がい者福祉の今後の話へと移っていきました。地域によって風景が違うし、大きな市ではあるけれど、みんなで手を取り合つて「オール岡山」として、岡山市なりの障がいのある人の地域生活の支援体制づくりに取り組んでいきたいという言葉が印象的でした。

ちなみに、センター立ち上げのスタートは平成30年ごろで、足掛け3年かかっているようです。行政も含めて何度も話し合いを重ね、協力して物事を作り上げていくことで、「仏に魂を入れることができた」そうです。そこには岡山市に「官民協働」の土壌があったことが大きいようです。



続いて、平松副センター長にインタビューをさせて頂きました。平松さんには「人とかわる」ことをテーマにインタビューをさせて頂きました。

●様々な方とかわることがあると思いますが、平松さんが普段人とかわる時に気を付けていることを教えてください。



(平松副センター長 以下「平」)
相談される方が相談したい事柄をちゃんと言えたかなあ、言い切れたかなあというのには気にしますね。どうしても聞きたいことがでてくるって聞いちゃうので、話の腰を折っちゃうときがあつて、最後まで言ってもうたかなあ、不快感はないかなあとは思いますが。

●その為に意識していることはありますか？

平 よく研修でも言うんですが、「聞く」・「聴く」・「訊く」、3つの「きく」を使い分けることを気にかけています。「聞く」は耳に自然と入ることなんです。意図しても意図しなくても勝手に入ってくるもの。興味をもったことや大事なことに耳を傾けるのが「聴く」。その話の中で「これは深く掘らないといけないな」「確認しないといけないな」と能動的に深掘りしていくのが「訊く」。相談支援専門員の初任者研修でも面談するときの「能動性」と「構成力」っていう2つを言われていて、受け身じゃなくって自分から進んで

能動的に訊く部分と、訊きながらやり取りをする中で「この方はこういう感じかな」と構成する・デザインすることを意図的にしなくちゃならないと言われている。そこは思います。

●振り返ってみると、関心を持っただけで話を聞いた気になつている部分もあるような気がしますね。

平 バイアスをかけてしまつし、経験があつたらあつただけ「この人はこういう人だろうな」と描けるから、それは危険な時がありますね。あ、違つたみたい。年数がたてばたつほど初心に戻らないといけないというのはそういうことなんだな、と。できてないですけどね(笑)

このあと話は平松さんが福祉に携わることになつたきっかけの話であつたり、福祉の仕事が続けてこれた理由や現在の仕事の魅力についての話だつたりと続いていきつたが、文字数の都合で泣く泣くカットしました(涙)



年を経て、知っていることが増えることが、人の話を先入観なしに聞くことが難しくなつていっているように感じます。目の前の人のニーズを訊けているか、またその前提としてその人の話を真摯に「聴く」「訊く」ことができていっているかを考える機会になりました。

全体を通してですが、様々な人との出会いによって平松さんの今があるんだと改めて思いました。だからこそ、ひとつひとつの出会いを丁寧に、大切にしていきたいものです。
(香川 正憲)

デイセンターなずな赤磐

『星降る福祉の郷』赤磐開所から
4カ月経った今……

前号で『デイセンターなずな赤磐』他事業所の4月開所についてお知らせさせて頂きました。今回は、開所後の様子並びに各事業についての紹介をさせて頂きます。



日も数回開所する予定です。また、月1回の農業マルシェに参加するなど地域おこしの取り組みにも力を入れています。



【いちばんぼし】

▼児童発達支援・放課後等デイサービス事業（定員5名）

児童発達支援で1名、放課後等デイサービス利用で6名の方が利用されています。重症心身障害児の方の他、身体障害児の方もお



れます。保育士や看護師がスタッフとして携わり、療育的な取り組みと、楽しい活動の提供に努めています。なずな赤磐と同様、作業療法士が入ることもあります。

【輪家（わっか）】

▼短期入所事業（定員2名）

6月の緊急事態宣言の解除後から週末を中心に始動し、多くの方からのご希望を伺っています。定



員が2名で、ご希望に添えないことも多々あると思いますが、7月からは一部平日も実施し、徐々に本格的な受け入れに向け準備を進めているところです。現在、児童を含め10名余りの方と契約が済んでいます。医療的ケアの必要な方も受け入れを実施しています。様々な余暇を楽しむ取り組みを大切に、楽しい外泊経験を積んで頂けるよう努めていきたいと思っています。

【のどか】

▼相談支援事業

管理者、相談支援専門員2名、相談員1名（10月からは相談支援専門員に変更）、事務員の構成で、従来の瀬戸障がい者相談支援事業所から「相談支援事業所のどか」として新たに出発しました。現在、特定相談支援142名、児童相談支援44名、地域



定着支援1名の方に契約頂いています。基本相談も多く、その他、岡山市の障がい支援区分の認定調査にも携わっています。また赤磐市の基幹相談支援センターへ週3日出向し、赤磐市地域生活支援拠点事業の届けも行い、当地の当事者の方々の安心ある地域生活に向けた支援に奔走する日々です。



令和2年度 社会福祉法人泉学園 決算報告

法人単位貸借対照表

令和3年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	488,087,609	流動負債	240,664,738
固定資産	1,408,582,555	固定負債	181,698,713
基本財産	893,698,856	負債の部合計	422,363,451
その他の固定資産	514,883,699		
		純資産の部	
		基本金	652,954,058
		国庫補助金等特別積立金	354,433,478
		その他の積立金	154,000,000
		次期繰越活動増減差額	312,919,177
		(うち当期活動増減差額)	2,001,311
		純資産の部合計	1,474,306,713
資産の部合計	1,896,670,164	負債及び純資産の部合計	1,896,670,164

法人単位事業活動計算書

(自) 令和2年4月1日
(至) 令和3年3月31日 (単位:円)

科 目		決 算 額
サービス活動増減の部	サービス活動収益計(1)	1,101,660,763
	サービス活動費用計(2)	1,110,327,084
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-8,666,321
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計(4)	14,258,748
	サービス活動外費用計(5)	3,830,530
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	10,428,218
経常増減差額(7)=(3)+(6)		1,761,897
特別増減の部	特別収益計(8)	133,818,659
	特別費用計(9)	133,579,245
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	239,414
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		2,001,311
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	300,917,866
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	302,919,177
	基本金取崩額(14)	-
	その他の積立金取崩額(15)	20,000,000
	その他の積立金積立額(16)	10,000,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		312,919,177

法人単位資金収支計算書

(自) 令和2年4月1日
(至) 令和3年3月31日 (単位:円)

科 目		決 算 額
事業活動による収支	事業活動収入計(1)	1,115,919,511
	事業活動支出計(2)	1,085,085,788
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	30,833,723
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)	184,830,568
	施設整備等支出計(5)	223,051,162
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-38,220,594
その他の活動による収支	その他の活動収入計(7)	27,757,540
	その他の活動支出計(8)	23,400,443
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	4,357,097
予備費支出(10)		-
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-3,029,774
前期末支払資金残高(12)		309,550,079
当期末支払資金残高(11)+(12)		306,520,305

令和2年度 泉学園事業報告

■主な実施事業

- 岡山県社会福祉施設等整備費補助金を受け、デイセンターなすな赤磐等新築工事を実施。
- 岡山県共同募金会の配分を受け、障がい者デイセンターさくら車両(ルミール)購入。
- 新採用職員研修、新任職員フォローアップ研修の実施。
- 法人役員会(理事会・評議員会)の開催
 - 令和二年六月四日
理事会実施(令和元年度事業報告決算報告等審議)
 - 令和二年六月十九日
評議員会実施(書面・令和元年度事業報告、決算報告審議)
 - 令和二年七月二十二日
理事会実施(入札参加業者の選定等審議)
 - 令和二年八月二十五日
理事会実施(デイセンターなすな赤磐新築工事の入札結果等報告)
 - 令和二年十一月十三日
理事会実施(令和二年度上半期現況報告、補正予算等審議)
 - 令和二年十一月二十四日
評議員会実施(書面・令和二年度上半期現況報告、補正予算審議)
 - 令和三年二月二日
理事会実施(書面・社会福祉法人泉学園定款変更等について審議)
 - 令和三年二月十日
評議員会実施(書面・社会福祉法人泉学園定款変更等について審議)
 - 令和三年三月十六日
理事会実施(令和三年度事業計画当初予算等審議)
 - 令和三年三月二十五日
評議員会実施(令和三年度事業計画、当初予算等審議)

● 泉 学 園

中野隆賀・藤原愛子・福本 薫・岡崎イツヨ

● 泉 の 園

澤田昭勝・原 史子・中野 佐都子・藤本信子・植松末幸・秀岡素子・泉の園家族会・福本 薫・公益信託 梶谷福祉基金・最上稲荷総本山奉賛会・株式会社 岡山丸果・妙法寺・山陽新聞社会事業団

● 泉学園共同生活援助事業所

橋本正道・岡山ヤクルト販売(株)

● 桑野 ワークプラザ

岡山南ライオンズクラブ
会長 小林正幸・松野建設株式会社

● 桑野 フレンドリーハウス

代表取締役 松野隆造・小川 守・桑野ふれあい家族会・明治安田生命保険相互会社・山陽新聞社会事業団

● 障がい者デイセンターさくら

株式会社さらい代表取締役 高塚浩史

● デイセンターなすな

株式会社さらい代表取締役 高塚浩史・杉本 知正

● デイセンターなすな瀬戸

株式会社さらい代表取締役 高塚浩史・有限会社 デイプラザ・福本 薫・岡崎イツヨ・福田博明

● 瀬戸障がい者相談支援センター

水内大輔

● ワークショップちどり

谷川増雄

法人並びに各事業所へのご寄付
ご寄贈ありがとうございました
(順不同・敬称略)

「新メニュー紹介・かき氷始めました…」カフェつみ木



岡山県に緊急事態宣言が5月に発令され、解除となる6月20日までの間、来店されるお客様は少なく、厳しい営業を強いられました。そんな中でも日々頑張らされている利用者さんと常連のお客様の為に、創意工夫をしながら営業を行っています。この度、夏の定番メニューの冷やし中華(700円)を始めました。料理長お手製のチャーシューが乗ったポリariumの冷やし中華です。暑くなってくると、まだ冷やし中華は始めないのかと常連のお客様からご要望のある人気メニューです。



唐揚げ定食

『泉の園での1年を振り返って』

また、新メニューで唐揚げ定食(600円)が始まりました。料理長が仕込んだ唐揚げは人気急上昇のメニューです。当初は6月限定でしたが、お客様に大好評の為、定番メニューに入れる事としました。是非一度ご賞味ください。

最後にかねてから始めたいと思っていたかき氷のご紹介です。
★シロップを4種類(いちご、レモン、ブルーハワイ、抹茶)揃え、お好みで練乳やあずき、アイスクリームをトッピング可能です。お値段は次の通りになります。

◎店内200円・持ち帰り200円
※トッピング・+50円(練乳、あずき)+100円(アイスクリーム)

暑い時期にぴったりのメニューで、南ふれあいセンターにお越しの際にはぜひお立ち寄り下さい。また、カフェつみ木では行楽弁当各種イベント時のご注文や貸し切りのイベントも承っております。ご予算、内容についてはお気軽にご相談下さい。スタッフ全員、来店をお待ちしております。

(カフェつみ木 ☎086-261-7300)
(熊代 徹)



一昨年、新型コロナウイルスの感染が拡大し、泉の園でも日常生活が一変しました。感染防止を第一に考え、行事や家族との外泊や外出、職員との買い物等を中止、制限せざるを得ない状況となり、泉の園が開所して以来初めての事ばかりで、不安定な気持ちになる利用者の方が多かったように感じました。

生活面でも様々な変化があり、例えば食事は食堂で一齐に食べる事を中止し、居室に運び個々で食べてもらう形となりました。しかし、居室で食事を食べる事を拒んだり、運ばれるのが待ちきれずに不安定となる方もおられ、数名の方は食堂でスペースを空けて食べてもらう事となりました。

行事については夏祭り、クリスマス忘年会や泉祭りが中止となりました。今までも台風や天候不順で中止となる事はありましたが、新型コロナウイルス感染防止という理由では、なぜ中止となったのか分からず、困惑される方が多かったです。大きな行事は中止となりましたが、感染対策を行った上で様々な小行事を企画しました。普段の行事の風景とは異なる場面も多かったのですが、楽しい行事の雰囲気を感じてもらえる事ができたのではないかと思います。

また、入所・通所メンバーが一緒に行う誕生会やグループ活動等はそれぞれに分かれて実施する事となりました。マンネリ化しないよ

うに様々な活動を工夫して行っています。

今年、7月に入ると新型コロナウイルスのワクチン接種が始まりました。利用者の中には「インフルエンザの注射には少し早いような…」と思っている方やずっと予防接種は受けてこなかったという方もおられました。話をしたり、励ましたりしながら何とか1回目の予防接種を受ける事ができました。接種を終えた後安堵感を感じる一方、「3週間後にはどうやって2回目の接種を受けてもら



おうか…。」と不安が頭をよぎりましたが、2回目の接種も無事に終え、大きな副反応は見られず、健康面、体調面も落ち着いておりほっとしています。

まだまだ予断の許さない状況である為、日常生活に戻るまでには時間が掛かりそうです。色々な変化を受け入れながら、泉の園で生活をしている利用者の皆さんがほっとできる時間、笑顔となる時間を少しでも増やす事ができるよう、日々の支援に取り組んでいきたいと思えます。(合田 正人)



送迎バスの贈与の御礼

6月1日、特定非営利法人ワークネットおかやま様より、桑野フレンドリーハウス・ワークプラザへ送迎バスを贈与して頂きました。皆さん、新しいバスに変わりましたが、一新されて、大変喜ばれています。大切に使用させて頂きます。ありがとうございました。(岡崎)



苦情解決報告 (令和2年度)

◆デイセンターなすな

◆ご本人が転倒されたが異常等見られなかった為、ご家族への連絡は降所時に行なった。異常が無くてもすぐに連絡してほしかった。

■電話番号を許可なく家族会役員に伝えていたことがあった。個人情報への扱いはどうなっているのか？

【解決に向けた取り組み】

■ご家族、相談支援専門員、統括責任者、管理者で話し合いの機会を数回持った。ご家族へ謝罪するとともに、今後は転倒に限らず、いつもと違う様子や状況等が見られた時には、すぐにご家庭に連絡することをお話しした。

■家族会ではあっても別団体であり、電話番号等の個人情報をご本人の確認を取らないでお伝えしてしまったことについて重

ねて謝罪し、今後は必ず前もって確認をとること、個人情報の取扱については十分に気を付けていくことをお伝えした。

退職職員・新任職員

【退職職員】

〈泉の園〉

- ▼小坂田優希さん (令和3年3月31日)
- ▼奥田 雪乃さん (令和3年3月31日)
- ▼在里 嘉倫さん (令和3年4月30日)
- ▼岡本 健介さん (令和3年4月30日)
- ▼岩井 理紗さん (令和3年5月31日)
- ▼太田 良美さん (令和3年5月31日)
- ▼中田 詩織さん (令和3年5月31日)
- ▼〈岡山南障がい者相談支援センター〉
- ▼後藤美奈子さん (令和3年3月31日)
- ▼〈障がい者デイセンターさくら〉
- ▼塩見 有子さん (令和3年2月15日)
- ▼藤内誠一郎さん (令和3年3月31日)
- ▼岡本 奈美さん (令和3年3月31日)
- ▼畦崎 妙子さん (令和3年5月7日)
- ▼〈桑野フレンドリーハウス〉
- ▼岡村美奈子さん (令和3年2月28日)
- ▼下山 美咲さん (令和3年3月31日)
- ▼〈デイセンターなすな〉
- ▼齋藤誠一朗さん (令和3年2月28日)
- ▼〈デイセンターなすな瀬戸〉
- ▼菱田 健人さん (令和3年3月31日)
- ▼松尾 由美さん (令和3年3月31日)
- ▼〈デイセンターなすな赤磐のどか〉
- ▼赤堀 秀美さん (令和3年4月30日)

【新任職員】

利用者の皆様が豊かに過ごせるようサポートしていきたいと思っています。

泉の園 生活支援員
橋 亜祐美 (令和3年2月15日)

不慣れな面が多いですが、利用者の方々と一緒に『楽しい』と思える支援ができるよう精いっぱい頑張ります。

泉の園 事務員
吉田 順子 (令和3年3月1日)

明るい職場で楽しく仕事をさせて頂いています。これからも頑張ります。

泉の園 事務員
辻内 智子 (令和3年4月1日)

精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。

泉の園 生活支援員
三野 絵里 (令和3年6月22日)

一人ひとりの個性を少しでも活かしてあげられるような支援を頑張っていきたいです。

岡山障がい者支援センター 相談支援専門員
土肥 耕介 (令和3年4月1日)

よく会い、よく話を聞く支援者になれるように励んでいきます。

障がい者デイセンター さくら 生活支援員
池田 恵美 (令和3年2月1日)

一人ひとりに寄り添った温かい支援ができるよう、心掛けていきたいと思っています。

障がい者デイセンター さくら 生活支援員
井本 慎一 (令和3年4月8日)

新人とは言い難い年齢ですが、一つずつ先輩方に教わりながら頑張ります。

障がい者デイセンター さくら 生活支援員
中山 瞬 (令和3年4月19日)

ご利用者がより良い生活を送れるように頑張ります。

障がい者デイセンター さくら 生活支援員
森下 小織 (令和3年5月1日)

ご利用者の一日が楽しかったと思っただけのような支援を行ってほしいと思います。

障がい者デイセンター さくら 送迎職員
原田 伸明 (令和3年6月1日)

新しく送迎の運転手に就きました。よろしくお願ひ致します。

デイセンターなすな 生活支援員
荒木 健次 (令和3年4月1日)

皆さんと笑顔で過ごせるよう、頑張っていきたいと思っています。

デイセンターなすな 赤磐 生活支援員
森 史恵 (令和3年4月1日)

モットーは『継続は力なり』。皆が安心して楽しく過ごせるよう頑張ります。

デイセンターなすな 赤磐 生活支援員
竹内 優駿 (令和3年4月1日)

利用者の方に満足して頂けるよう頑張っています。

デイセンターなすな 赤磐 調理員
川藤 裕子 (令和3年4月1日)

利用者の皆さんに喜んでいただけるような安全で美味しい食事を提供できるように頑張ります。

デイセンターなすな 赤磐 生活支援員
土井 聡子 (令和3年4月1日)

一日も早く皆さんのお役に立てる様、精一杯がんばります。

デイセンターなすな 赤磐 調理員
水島 小百合 (令和3年4月1日)

皆さんと笑顔で過ごせるよう、頑張っていきたいと思っています。

デイセンターなすな 赤磐 送迎職員
山田 留里 (令和3年4月1日)

一日一日、気を引き締め、安全運転を心掛けて送迎したいと思います。

相談支援事業所のどか 相談支援専門員
佐藤 美保 (令和3年4月1日)

今、相談支援専門員の資格を取るために勉強しています。よろしくお願ひします。